

私の戦争体験 コレラ船

伊藤 恭子

私たちは、一九四六年七月、新京(現在の長春)を出発して、無蓋車と徒歩で、一ヶ月程かかって、コロ島に辿り着きました。乗せられた熊野丸でコレラが発生し、四十日間隔離され、上陸出来ませんでした。

乾パンをリュックに入れていましたが、二、三日で無くなり、あかざ等を食べて飢えをしのぎました。炎天下ということと相俟って、コロ島に着いた時は、ほとんどの人が栄養失調状態だったと思います。熊野丸でも食糧は極端に不足していました。こうりゃん飯少しと具がほとんど入っていない味噌汁を少し、おかずはまったくありませんでした。三歳の弟は乗船して四、五日位に亡くなり、三六歳の父は上陸が許可された時は立ち上がることが出来ず、担架で運ばれ、佐世保港

に上陸して間もなく亡くなりました。

船内はギユウギユウ詰めで、私たち家族は六人で、与えられたスペースは一坪(畳二枚位)で、リュックサック等荷物を置くと畳一枚位しか残りません。そこに四十日間過ごさなければなりません。夜になっても寝るところなどありません。コレラが蔓延しても隔離する場所はなく、毎日大勢が亡くなりました。死体は、航行中は水葬でしたが、佐世保沖に停泊してからは、艇に乗せられて佐世保港に運ばれました。

(いとう きょうこ 新潟市)